

2006年度第3回 第22期理事会議事録

日時：2006年7月17日（日） 14:00～17:30

会場：東京外国語大学本郷サテライト

出席者：須藤、上杉、小田、春日、窪田、栗本、スチュアート、瀬川、関、田中、棚橋、富沢、
永淵、松田、三尾、森山、山本、吉岡、和崎

委任状提出：赤堀、大塚、松岡

〔承認事項〕

1. 前回（2006年度第2回）理事会議事録

〔報告事項〕

1. 会長報告

- ・第40回研究大会において学会賞、学会奨励賞を設けスタートしたこと、社会調査士認定機構、学習指導要領改訂の専門委員会への対応などに触れ、今後もひきつづき協力を依頼した。

2. 庶務理事報告

- ・新入会員（33名）につき、総務会で入会を承認したことを報告。
- ・資料に基づき、日本学術会議「『科学者の行動規範』等に関する調査」「科学者の倫理綱領・行動規範の設置状況等に関するアンケート調査」への回答を総務会で作成、倫理規定検討委員会の確認の上で先方へ送付したことを報告。

3. 総務理事報告

- ・社会調査士認定機構に2005年11月25日付で本学会の参加を希望する旨の文書を送付したが、このたび先方より現在は公益社団法人化の準備を進めている段階にあり、法人化後に本学会の参加を理事会の審議事項とすることを申し合わせたとの書面が届いたことを報告。この件については2006年6月19日付で機構の審議を待つ所存であるという内容の文書を会長名にて送付したことを報告。

4. 広報理事報告

- ・『文化人類学』のpdfファイルの提供を印刷会社から受けることになったため、バックアップデータの保存と、将来的には国立情報学研究所へのpdfファイルでの提供が可能になったことを報告。
- ・科学技術振興機構が運営するJ-stage（研究大会演題登録・予稿集公開システム）の利用を検討中であることを報告。
- ・現在、学会独自サーバー（jasca.org）への移行作業中であることを報告。

5. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：70巻2号の進行状況と、特集企画を検討中であることを報告。また、「研究ノート」の性格や「資料と通信」の位置づけについても検討を続けていくことを報告。
- ・学会賞選考委員会：選考委員へ委嘱状を発行したことを確認。
- ・社会調査士標準カリキュラム検討委員会：6月22日に京都大学で委員会開催、今後、本学会としてカリキュラムにどのようなものを組み込んでいけるかを検討中であることを報告。
- ・応用・実践人類学に関する検討作業グループ：実践人類学連携事業検討委員会が山下晋司氏によって立ち上げられ、その会合に学会理事として栗本理事が参加したこと及び今年度事業案を資料に基づき報告。その上で、学会として委員会の事業をどのように位置づけるか、国際協力機構（JICA）と連携することが学会に認められるかどうかについて議論の必要があることを報告。

この件については、今年度の事業計画では応用・実践人類学に関する検討作業グループを通じた国立民族学博物館との事業連携の検討を行うこととなっているため、今年度の事業着手は不可能であること、ま

た国立民族学博物館の事業への連携、協力は可能であることを議論の上、確認した。また、山下氏に来年度以降どういう事業が連携可能かを検討して欲しい旨を伝えることとした。

- ・『文化人類学中事典』編集委員会：次回の理事会で中事典の具体的な構成について提案を行うことを報告。
- ・英文論集編集委員会：論文の翻訳をどこが負担するかが不明なため調整中であること、そのため論文の選択はJRCAが優先することとしたことを報告。
- ・その他：須藤会長より、スペイン文化人類学会の会長の要請を受け、スペインで文化人類学の学位がなくなるという現状に対し、世界の文化人類学会から文化人類学の学位を独自に出すという声明を小泉潤二氏とともに送ったことを報告。

〔審議事項〕

1. 朝日賞候補者の推薦について

- ・総務会案を承認。

2. 民族研究所公開講座講義録（旧民族学振興会資料）の閲覧方法について

- ・栗本理事より、「民族研究講座第1期第1回」の講義録が完成したことを報告。閲覧は本学会員に限ることが提案された。遺族から著作権をとることが必要であることを確認、そのための遺族探しは主に委員で行い、見つからない場合には総務会や評議員会メーリングリストで情報を募ることとし、2007年2月頃には閲覧できる状態を目指すことを承認した。また、第2回講義録についても継続予定であることを報告。

3. 民博との連携事業—文化人類学文献情報データベースについて

- ・栗本理事より、資料に基づき文化人類学文献情報データベースの登録画面の提案と説明があった。情報収集は学会員の自己申告により、昨年度の業績に限り入力すること、登録ソフトの開発に関する費用は国立民族学博物館が負担することを報告。登録画面を学会ホームページにリンクすることについてはパスワードで会員のみ入れるようにすることが必要との意見が出され、データベース作成の技術的な調整・検討を博物館と行うことが確認された。また、データベースを学会ホームページで公開する場合の著作権の所在などについても意見があった。今回提案された登録画面についてはこのようなスタイルを進めることを承認し、意見があれば理事会メーリングリストに投稿することとした。

4. 中教審の学習指導要領の改訂の専門委員会への対応について

- ・須藤会長より、中央教育審議会の高等学校部会では「学習指導要領の改訂にかかわる協力者会議」に向けて会議を行っており、文化人類学的な学習内容を、現行のどの「種目」・「総合的な学習内容」でどのように学習すべきかの提言を出すよう求められていることを報告。当面この方向で進めるので、現段階では須藤会長、森山理事、杉本良男氏が情報収集にあたることを提案、承認した。また、情報収集の結果を受けて、次回理事会で特別委員会ないし作業グループの設置など更なる提案を行うこととした。

5. JRCAの編集方針について

- ・スチュアート理事より資料に基づきJRCAの編集方針について説明があり、書き下ろし及び翻訳のレビュー論文とインタビュー記事を掲載することが提案された。特集論文の巻頭論文をレビューとして翻訳する案などが出され、様々な意見をふまえて対策を検討することとし、原稿を集める努力を行うことが確認された。

6. その他

- ・森山理事より、研究大会会場において入会申込書を受け付けないことを学会ホームページの入会案内に記載することについて提案があった。関連して、窪田理事より、大会のあり方として会員外も参加可とする方針を理事会案として決定してはどうか、という提案があった。次回理事会で森山理事が内規の変更案を作成、提案を行い、調整することを承認した。
- ・棚橋理事より、波平恵美子氏より寄付の申し出があったことを報告。寄付行為を受けられるような可能性の検討を含めて、会計の方で情報収集を進めて良いかどうかを提案、承認した。その上で法的にどのような対応をすべきか2007年3月頃までに検討することとした。
- ・関理事より、第40回研究大会で本人に承諾を得ないままの録音があり、当事者同士でやりとりの上、解決したことを報告。

以上